

### サステナブル経営の推進

# サステナブルな社会実現のプロセス

社会課題を経営に取り込み、強みである「対応力」を生かし、持続可能な企業と社会の双方を実現します。

大阪有機化学工業グループでは、NS10第2次5ヶ年中期経営計画見直しの時、サステナビリティを意識した理念体系を構築し、マテリアリティ、SDGsを関連付け、中期部門目標との紐付けを行い、活動しています。

大阪有機化学工業が想定する社会課題



気候変動



国内の人口減少



エネルギーの安定供給



技術革新



資源の効率的な利用

長期経営計画「Next Stage 10(NS10)」(2015年11月期～2024年11月期)

社会課題の解決に取り組む

NS10第2次5ヶ年中期経営計画(2020年11月期～2024年11月期)

事業拡大・高収益 「行動方針」と「マテリアリティ」「SDGs」を関連付ける

大阪有機化学工業の事業領域



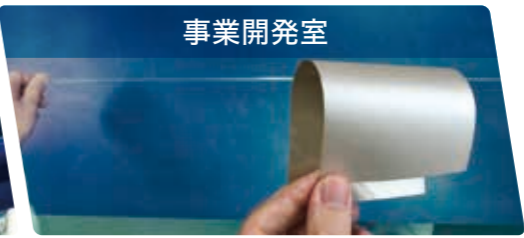
化成品事業



電子材料事業



機能化学品事業



事業開発室

CSR領域

## マテリアリティ(優先的な取り組み)

大阪有機化学工業グループの活動が長期的な視点に立ち、環境や社会に与える影響を把握、管理しながら事業を行うために、「GRIスタンダード」「ISO26000」など国際規格をもとに課題を特定

SDGsの視点



### E 環境

- 脱炭素に向けた気候変動への対応
- 水資源の確保
- 排水および廃棄物の管理
- 環境コンプライアンスの徹底
- エコ製品の売上拡大

### S 社会

- 安心して快適な暮らしへの貢献
- 人材確保と育成
- 人権の尊重
- 安全で働きやすい職場づくり
- 人材の多様性

- CSR調達
- 原材料の管理
- 事業所のある地域への貢献
- ステークホルダー・エンゲージメント

### G ガバナンス

- サステナビリティ・マネジメント
- コーポレート・ガバナンスの充実
- 企業倫理と誠実性の追求
- 事業リスクのマネジメント

大阪有機化学工業の経営理念

わたしたちは、一人ひとりの個性を大切に、お客様と共に社会の発展に貢献します。

ユニークな機能を備えた材料を提供することにより、

サステナブルな社会の実現

持続的な価値創造企業

長期経営計画「Next Stage 10(NS10)」の達成

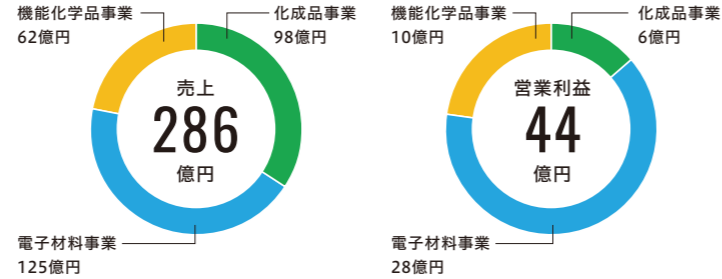
「特殊アクリル酸エステル」のリーディングカンパニーとしてグローバル市場に価値を提供する

# サステナブル経営の推進 大阪有機化学工業グループの事業領域

アクリル酸エステルを基盤として、生活を支える身の回りのさまざまな樹脂原料となる素材を提供しています。

## 事業と主な製品

当社グループは特殊アクリル酸エステルの多品種少量生産を得意とするB to Bメーカーです。多様な製品群を有しており、世界でトップシェアの製品群を何種類も有しております。



## 化粧品事業



塗料原料



粘接着剤原料

製品詳細はWEBサイトをご参照ください。  
<https://www.ooc.co.jp/products/chemical/>

## 電子材料事業



表示用材料



半導体用材料

製品詳細はWEBサイトをご参照ください。  
<https://www.ooc.co.jp/products/electronic/>

**戦略** 卓越した蒸留精製技術により差別化した高純度製品に資源を集中すること、および、有機合成技術を生かした新製品を継続的に上市することにより、特殊アクリル酸エステルのグローバル市場において、絶対的な地位を構築する。

**外部環境** (機会) 脱炭素社会実現に向け、植物由来原料の需要の高まり (リスク) 気候変動、生物多様性リスクによる化学物質管理の規制の厳格化

**当社の状況** (強み) 有機合成技術、重合防止技術、蒸留精製技術、豊富な製品ラインナップと知識 (課題) 不採算製品の改廃

**製品**  
**塗料原料** 自動車用、スマートフォン用などで使われており、汎用品では達成できない高反応性、高密着性などの機能を付与することができます。純度が高いため、低着色、低粘度などのメリットがあります。

**粘接着剤原料** 通常の溶剤にも、UV硬化型の粘接着剤や嫌気性の粘接着剤にもご使用いただけます。その他、塗料向けと同様に、低着色、低粘度、低臭気などのメリットがあります。

**バイオマスアクリレート** 持続可能な開発目標 (SDGs) に向けた活動として、バイオマス由来 (植物由来) の原料を使用した特殊アクリレートをバイオマスアクリレートと名付け、開発を行っております。

**戦略** 拡大する市場に対し十分な供給能力を保ちながら、ますます厳しくなる品質要求に応えるために、引き続き積極的な設備投資を行う。また、既存事業で培った高い品質管理能力と合成技術を生かすことにより、次世代材料の開発、および、周辺材料への展開を図る。

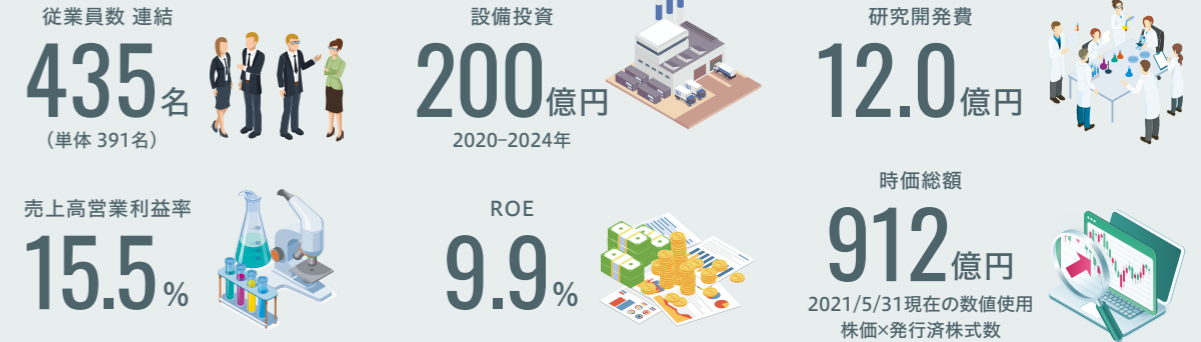
**外部環境** (機会) 周辺分野を含む電子材料市場の拡大 (リスク) サプライチェーンの断絶、代替製品および代替技術の台頭

**当社の状況** (強み) 迅速な設備投資、有機合成技術、原料からの一貫製造、高い品質管理技術 (課題) 顧客ニーズの多様化、海外市場への対応

**製品**  
**表示用材料** ディスプレイの高機能化に対応したパターン形成材料や光学材料などの光硬化型レジストやディスプレイ向けレジスト用ポリマーを開発しております。

**半導体用材料** 半導体材料の製造に使用されるレジストの原料であるアダマンチル系モノマーやラクトン系モノマーをはじめとする高品質で新しいアクリルモノマーを開発しております。

## 数字で見る大阪有機化学工業グループ



## 機能化学品事業



化粧品原料



機能性材料

製品詳細はWEBサイトをご参照ください。  
<https://www.ooc.co.jp/products/function/>

## 事業開発室



機能性アクリルエラストマー材料



有機圧電材料

製品詳細はWEBサイトをご参照ください。  
<https://www.ooc.co.jp/research/project/>

**戦略** 特殊アクリル酸エステルの合成技術と、それらの重合技術を共に有することで実現した、特別な機能を付与した材料を、グローバル市場に提供する。

**外部環境** (機会) 脱炭素社会実現に向け、植物由来原料の需要の高まり (リスク) 代替製品および代替技術の台頭、価格競争に陥ることによる販売喪失

**当社の状況** (強み) 機能を分子構造から提案できる知識、原料からの一貫製造を実現できる製造技術 (課題) 既存製品の用途展開による新たな市場の開拓、新規製品群の育成

**製品**  
**化粧品原料** ムース、ジェル、ワックスに加え、事業譲受によりシャンプー、リンス、ヘアカラーと使用用途も充実し、ヘアケア用の化粧品原料として、開発・提供しております。

**機能性材料** 特色のある機能性材料として、インクジェット材料、コーティング材料、超親水性コーティング材料などの開発・提供をしています。

**戦略** ターゲット市場の明確化と共同開発の深耕を通じて、特殊アクリルをベースとした新しい価値を創造し、次世代の事業の柱を確立する。

**外部環境** (機会) SDGs達成に向けた取り組みによる新規ビジネス創出機会の増大。ポストコロナ社会によって遠隔、非接触に関するビジネスの成長加速 (リスク) DXの加速による経営資源の統合などで、独自技術の優位性確保の難しさ

**当社の状況** (強み) アクリル材料に関するノウハウの蓄積、唯一無二の特性を有する材料に関わる高い技術・豊富な知識 (課題) 新たな事業領域への進出であり、エンドユーザーまでの距離感が長く、新規事業の創出に時間がかかる。製品供給体制の構築

**製品**  
**新規開発品** 独自のアクリル酸エステル化技術・特殊重合・配合技術を駆使し、高伸張性、かつ高柔軟性を有する「伸縮性アクリルエラストマー材料」、アクリルエラストマーに導電性を付与させた「伸縮性導電材料」を開発いたしました。また、柔軟性を有した「有機圧電材料」も開発しており、これらの開発品はウェアラブル、各種センサ、アクチュエータ、ロボティクス分野向け素材、自動車分野における樹脂添加剤などさまざまな分野にて有効活用が期待されます。

# サステナブル経営の推進 長期経営計画実現に向けたESGに配慮した経営

大阪有機化学工業グループでは、長期経営目標として、E(環境)S(社会)G(ガバナンス)と生産性、安全の5つのKPIを設け、CSR重要課題であるマテリアリティから、中期方針、行動指針、主な取り組みを実施していくことで、着実に長期経営計画を実行し、SDGs達成に貢献していきます。

	マテリアリティ	中期方針	行動指針	主な取り組み	長期経営目標 2024	持続可能な 開発目標 (SDGs)への 貢献
<b>E 環境</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 脱炭素に向けた気候変動への対応</li> <li>■ 水資源の確保</li> <li>■ 排水および廃棄物の管理</li> <li>■ 環境コンプライアンスの徹底</li> <li>■ エコ製品の売上拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 再生可能エネルギー活用</li> <li>■ 製品サイクルを通じ、化学物質および廃棄物の管理および削減</li> <li>■ 資源再利用の積極的活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 気候危機を自分ごとに</li> <li>■ 環境負荷低減</li> <li>■ 自然と社会の調和に配慮した製品開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ バリューチェーン全体でのCO<sub>2</sub>削減の検討</li> <li>■ 再生可能エネルギー活用の検討</li> <li>■ 水使用量の削減</li> <li>■ 各国、地域における環境関連の法規制遵守</li> <li>■ 環境コンプライアンスの遵守</li> <li>■ 環境にやさしい事業形態へのシフト</li> <li>■ 資源再利用の積極的活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CO<sub>2</sub>排出量(2013年度比) <b>15%以上削減</b> 2030年度 <b>30%以上削減</b> 2050年度 カーボンニュートラル達成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13 気候変動に具体的な対策を</li> </ul>
<b>S 社会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 安心して快適な暮らしへの貢献</li> <li>■ 人材確保と育成</li> <li>■ 人権の尊重</li> <li>■ 安全で働きやすい職場づくり</li> <li>■ 人材の多様性</li> <li>■ CSR調達</li> <li>■ 原材料の管理</li> <li>■ 事業所のある地域への貢献</li> <li>■ ステークホルダー・エンゲージメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客満足度の向上</li> <li>■ 従業員満足度の向上(働きがいのある職場づくり)</li> <li>■ ダイバーシティ(価値観、多様性)の積極的活用</li> <li>■ 地球や社会と共存</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 製品の安全性・品質の確保</li> <li>■ ユニークな機能材料を提供</li> <li>■ 尊厳と権利の尊重</li> <li>■ 安全で健康な環境づくり</li> <li>■ お互いの良さを生かし、補い合う公正・公平な取引関係維持</li> <li>■ 積極的に社会に参画</li> <li>■ WIN-WINな関係</li> <li>■ 建設的な対話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 事業活動による社会貢献意識向上</li> <li>■ 大阪有機の知名度アップ</li> <li>■ 人材育成の充実</li> <li>■ ハラスメント対策</li> <li>■ 健康経営の推進</li> <li>■ ワークライフバランスの推進</li> <li>■ ダイバーシティに向けた取り組み</li> <li>■ 情報・価値観の多様性対応</li> <li>■ CSR調達の構築</li> <li>■ 主要製品原料の安定調達</li> <li>■ 地域との継続的交流</li> <li>■ サステナビリティを軸とした対話の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 働きがい指標 快活型組織 B判定(上位10%~30%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 働きがいも経済成長も</li> </ul>
<b>G ガバナンス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サステナビリティ・マネジメント</li> <li>■ コーポレート・ガバナンスの充実</li> <li>■ 企業倫理と誠実性の追求</li> <li>■ 事業リスクのマネジメント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 持続可能な開発のためグローバル・パートナーシップを構築</li> <li>■ 安全操業と経営効率の最適化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 持続可能な未来づくりに貢献</li> <li>■ 透明性の確保</li> <li>■ 積極的、効果的、公正な開示</li> <li>■ 約束を守る、誠実、謙虚</li> <li>■ 組織的な危機管理徹底</li> <li>■ 安全を最優先</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 価値創造による社会課題の解決</li> <li>■ 経営の透明性向上と経営システムの効率性向上</li> <li>■ 経営理念の浸透</li> <li>■ リスクマネジメント体制構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CGC準拠率 <b>100%</b> (より高いガバナンス水準を備える)</li> <li>■ 休業災害 <b>0件/毎年</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12 つくる責任 つかう責任</li> <li>3 持続可能な消費と生産</li> <li>5 ジェンダー平等を推進しよう</li> <li>7 エネルギーをクリーンに</li> </ul>